

大**中**PRIDE



大津町立大津中学校
生徒指導通信 7号

令和5年6月2日(金)
文責：岡村 康平

『心に残る人』～あなただけの物語～

以下、ある本からの抜粋です。

ある小さな駅の前で「人待ち」をしているとき、こんな光景を見ました。

1人の女子高校生が小走りに駅の改札を抜けて、通りに停めておいた自転車に向かっていました。おそらく、朝は家から駅までは自転車、そこから学校までは電車通学。自転車は駅前の通りに停めておき、帰りはその逆のコースをたどるのがこの女子高生の習慣なのでしょう。

自分の自転車に近づくと、自分の自転車から7、8台先までが将棋倒しになっていることに気づきました。あわてて自分の自転車を起こした後、どうしようか迷っている様子でした。駅のすぐ横にはスーパーマーケットがあり、夕方にもなると、その通路は買い物に来た主婦たちも自転車を停めるために、いつも混んでいるのです。

どうするか見ていると、その女子高校生は自分のカバンを自転車のカゴに入れると、倒れている自転車を1台ずつ起こし始めます。自分が倒したわけではないので、知らん顔をしていても良かったはずですが、そうはしませんでした。

自転車のハンドルが隣の自転車のサドルと絡み合っているものもあれば、カゴに引っかかっているものもあります。それを1台ずつ離し、立て直す作業をおこなっていました。なかなか感心なことです。私はちょっと「良いものを見た気持ち」になりました。しかし、そういう理由でその女子高校生が「私の心に残った」というわけではありません。

その直後に、意外な展開になったのです。

女子高校生が自転車を何台か起こしたときに、スーパーの買い物袋を両手に持った「おばさま」が「あんた、何やってんのよ！私の自転車、倒したのね。勘弁してよ、新品なのよ、もう！」といら立った声を上げたのです。

突然のことに、女子高生の目はまん丸になり、何か言いたそうでしたが、あまりの勢い、なかなか言葉になりません。女子高生の「いえ、違います。違います」という途切れ途切れの言葉をさえぎって、女性が女子高生の顔をじろりと見ると、「まったく、人の迷惑を考えなさいよ！」と怒りの一言…。さらに、何かぶつぶつ言いながら女子高生を押しのけると、自分の自転車を乱暴に引き起こし、さっと走り去りました。

誤解され、一方的に怒鳴られ、弁明することもできず、「冤罪（えんざい）」を被せられ…。このときの女子高生の心情は、悔しさ、悲しいさ、腹立たしさなど、様々な感情が入り混じって、どうにも気持ちの整理はできなかったことでしょう。

しかし、しばらくして女子高生は深呼吸をすると、気を取り直した様子で淡々と残りの2台の自転車を起こし始めました。そして、何もなかったかのように自転車で去って行ったのです。ここまであつという間の出来事でした。

それはあまりに「理不尽なこと」であったために、思い出す度にちょっと嫌な気分になります。しかし、それ以上に「心に残った」のは、最後に気を取り直して残りの自転車を起こしたということです。理不尽なことでも、ふてくされずに、自分の決めたことを最後まで続けたことです。私はその女子高生の「強さ」「豊かさ」「はつらつさ」など、広い意味での希望のようなものを感じました。だからこそ、私の「心に残る人」となったのです。

私がこの本の文章を読んで感じたことは、どんな人にも、誰も知らないその人だけの物語があるということです。もちろん、あなたたちにも、誰も知らないあなただけの物語があるはずですよ。

もっと言えば、あなたが「人の心に残る」存在であることも大切ですが、一方で、誰かが「あなたの心に残っている」存在であることも大切なことのように思います。どれだけ深く残っているかということが、あなたの人生の「豊かさ」の証のようにも思います。

私たちは生きていくうちに、色々なものを失います。しかし、それが「物」だったら、失ったものが、たとえ高価なブランド品だったとしても「物でよかった」と思える人になりたいものです。そういう心の訓練が自分を支えるのかもしれない。

あなたの「心の中で生きている人」を失うことの方が、

大きな財産を失ったということのように思います。